とやまね通信

2023. 3月発行
第25号

発行／一般社団法人富山県介護支援専門員協会
富山県富山市安住町5-21（サンシップとやま3F）
TEL 076−432−6455　FAX 076−432−6450

ごあいさつ

一般社団法人　富山県介護支援専門員協会　会長　**髙 原　啓 生**

平素より当協会の活動に対し、格別のご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染に翻弄された１年でした。人への接し方をはじめとする環境の変化や、先行きの見えない不安もある中で懸命に利用者に向き合われた皆様に敬意を表するとともに感謝申し上げます。

本年は、令和６年度のいわゆるトリプル改定に向けた社会保障審議会介護給付費分科会の議論もスタートします。介護支援専門員の声が反映されるよう日本協会等が実施する各種のアンケート等に積極的に参加していただければと思います。そうした取り組みを行うことにより介護支援専門員がより誇りをもって活動できる環境づくりに努めたいと思います。

あらゆる環境の変化の中でも、県民の皆様に穏やかで少しでも幸せな、そして楽しみのある自立した生活を送っていただけるよう会員一同力を合わせて、地域の皆様から頼りにされる協会を目指してまいりたいと思いますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和４年度　富山県介護支援専門員協会通常総会報告

基調講演

一般社団法人 日本介護支援専門員協会　副会長　**七 種　秀 樹 氏**

令和４年６月24日に富山県介護支援専門員協会通常総会が行われました。新型コロナの感染状況が落ち着かずオンラインにて総会を開催され、その後、「日本介護支援専門員協会の活動と組織強化の意義」一般社団法人日本介護支援専門員協会副会長 七種 秀樹様より基調講演をいただきました。

一般社団法人日本介護支援専門員協会 基本方針として、１．介護保険法改正、介護報酬改定に関する対応　２．介護支援専門員の機能の強化　３．介護支援専門員の質の向上　４．調査研究の実施と情報分析機能の向上　５．各学術団体・職能団体等との連携強化への取り組み　６．災害支援と災害対応　７．広報活動　８．会員サポート事業　９．その他を中心に協会のこれまでの活動概要を改めて述べられました。

今後は、社会的地位の向上、提言及び要望活動・意見表明、質の向上に向けた取り組みの３つを中心に展開し、介護支援専門員としての地位向上と処遇の改善のための一歩と考えてくださいと熱いメッセージを頂戴いたしました。

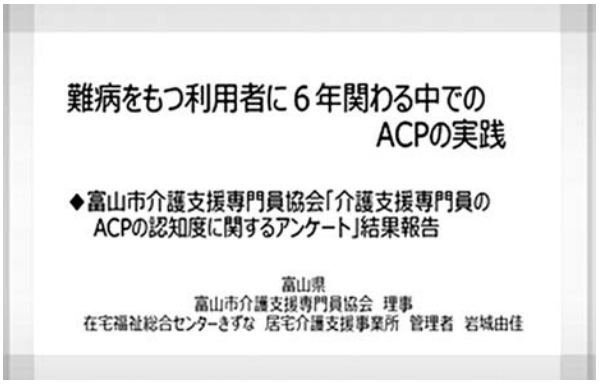
報告者　富山県介護支援専門員協会理事　**平 田　洋 介**

第12回北陸ブロック研修会 ～発表者として参加して～

令和４年11月19日に第12回北陸ブロック研修会が「利用者、家族と共に"生きている喜び"と"死に向き合う"ケアマネジメント」をテーマにオンライン開催されました。

基調講演では、南砺市民病院の清水幸裕院長より「ACPの倫理的観点と啓発活動について」ご講義をいただきました。その後、実践事例報告として北陸３県の介護支援専門員から事例発表がありました。私は、富山市介護支援専門員協会として取り組んだ「介護支援専門員のACPの認知度に関するアンケート」結果報告と、自身が担当している難病をもつ利用者への関わりとACPの実践について発表しました。

清水院長の「ACPは、目の前の患者自身とその人の人生に興味を抱いて、その人の意向そして価値観を尊重しながら最善の最期を一緒に考え、最期の生き方の選択を支援するための対話」であり、「その目的は患者の幸せ」であるというお話から、ケアマネジメントにも通ずる内容であると思いました。その前提として、医療関係者、ケアマネジャーともに患者、利用者、家族との信頼関係は欠かせないものです。ナラティブの視点を大事にし、今後も利用者や家族等との関係づくりやケアマネジメントに役立てていきたいと思いました。



報告者　在宅福祉総合センターきずな　**岩 城　由 佳**

北陸ブロック研究会in富山を終えて

令和４年11月19日(土)に「日本介護支援専門員協会第12回北陸ブロック研究会in富山」がZOOM開催され、北陸３県から170名の方々にご参加いただき感謝申し上げます。

今回のテーマ「利用者、家族と共に'生きている喜び'と'死に向き合う'ケアマネジメント」と題して第１部で南砺市民病院院長　清水先生よりＡＣＰの取り組みについてご講義いただき、参加された皆様の一人一人が介護支援専門員の専門性の答えやそのヒントを得ることが出来たことを確信しています。

第２部では北陸３県の介護支援専門員が利用者、家族と向き合い、関係作りを「実践報告」を通して、利用者、家族との思いの変化を共有できるか介護支援専門員に求められている役割について再確認することができました。

最後に実行委員という大役を通じ、多くの方々と出会うことが出来ました。今後の成長の糧となる気づきを得ることが出来ました。このような機会を与えて頂いたこと及び、多くの関係者の皆さんに支えられて大役を無事務めることについて改めて御礼を申し上げます。

報告者　富山県介護支援専門員協会理事　**吉 田　克 彦**

第12回　北陸ブロック研修会 in 富山に参加して

南砺市民病院院長、清水幸裕先生より「ACPの倫理的観点と啓発活動について」という内容で基調講演がありました。ACPの話しあいは自分のためだけでなく家族のためでもあり、事前に話しあいが行われていることで家族の心の負担は軽くなるということでした。ACPの目的は「あくまでもその方に最善の最期を送ってもらうこと」であり、医療者の都合で行うものではない、自律尊重原則であるという部分はわかっているようでつい支援者が口を出してしまいそうな所でもあり今後気をつけたいと思いました。人生は物語りであり、本人に語っていただくことでそこから価値観が確認できる。が、語っていただくには信頼関係を構築すること、関わる人がその人の人生に興味をもつことが大切であると述べられました。私たちケアマネは日々の業務の中から、「この人に話しても大丈夫」と信頼してもらうこと、利用者さんの意向や価値観を尊重しその方の物語りに寄り添っていくことが大切だと感じました。実践報告・意見交換ではそれぞれの県から事例発表があり終末期にどう関わるのか、また研修やアンケートに取り組まれACPについて今後の参考にさせていただきたいと思いました。

報告者　射水市新湊西地域包括支援センター　**新 谷　千 春**

富山県介護支援専門員協会災害対策委員会「BCP策定について」

2021年度の介護報酬改定に伴い、業務継続計画（BCP）の策定が義務化され、全ての介護サービス事業所が24年3月末までに策定しなければなりません。皆さんの事業所、施設では、どのくらい進んでいますか。

当会のBCP作成に関するアンケートでは、作り方が分からないという回答が多くありました。厚生労働省ホームページに、BCPのひな形（例示入り）がアップされています。まずは、取り掛かりやすい所から作成することが、おすすめといわれています。

また訓練の定期実施が義務付けられています。職員への周知とともに、それに基づいた実地訓練などでブラッシュアップを繰り返していくことが必要です。自事業所だけにとどまらず、施設・事業所間の連携や、地域（住民・利用者）のためのBCPという視点も必要です。一緒に学びながら、連携を深めていくことができたらと思います。

報告者　富山県介護支援専門員協会　災害対策委員長　**梅 田　智 則**

いい日いい日介護の日 in 富山について

11月６日、富山市のファボーレにて介護の日フェスティバルが「伝えよう介護の魅力、つなげよう！地域の絆」という題で開催されました。

当日は、がんばる介護職員の表彰や、富山県のユーチューバーのとやまる子さんのトークショー、ご当地ヒーロー「きときと戦士キットムーン」のショー等があり沢山の一般の方や介護従事者の方が来場されました。

富山県介護支援専門員協会は相談ブースを開き、介護保険の相談を受け付けました。

報告者　ケアホーム生地　**伏間江　龍志**

令和４年度　主任介護支援専門員研修「適切なケアマネジメント手法」研修会

令和４年７月20日、10月20日、令和５年１月18日の３回シリーズで、国際医療福祉大学大学院　石山麗子教授より「適切なケアマネジメント手法」の概論と基本ケアの実施方法を学びました。実際に担当利用者に対して、基本的ケアのアセスメント・モニタリングを４か月にわたり実践し、利用者の生活という抽象的なものを数値化し見える化することで、気付くことがたくさんあると実感しました。ケアマネジャーが利用者の生活をどれだけとらえられるか、とらえた事実をどのように活かしていくのか、具体的な目標を組み立てていく事が大切であると学びました。今後も生活の場面でこの手法を実践し、利用者や家族、多職種が、取り組むべきことに意識を向けるアプローチをしていきたいと思います。

報告者　射水万葉苑居宅介護支援事業所　**高桑　早奈恵**

令和４年度　オンラインスキルアップ研修「基本のき」「記録の書き方」に参加して

記録は往々にして、自分の物差しや思い込み、やり易さのみで書いてしまいがちになる。講師の竹内嘉伸先生は過去に書かれた自らの記録やケアプランの例をあげ、どこを直すべきか、記録としてよりよくなるかというグループワークを組み、より身近で安心感をもって講義を受けさせて下さった事が印象的だった。ケアプランの期間設定や書き方の疑問が解消し、記録を残すべきポイントや合理化、そして記録を通してケアマネが行うべき業務の確認ができること等も理解できた。特に支援経過では、自他いずれにとって良きも悪しきも事実のみを記す客観的で分かり易い記録の大切さに気付かされた。今回の記録についての講義は、具体的なケアマネ業務の最たるものであり、且つそれらを証明する重要な所であり、今後の業務に大きな安心感をもって取り組める学びを頂くことができた。講師及び企画関係各位に感謝を申し述べたい。

報告者　よりどころ居宅介護支援事業所　**仙 田　智 治**

令和４年度　スキルアップ研修

令和５年１月25日 開催の『令和４年度スキルアップ研修（オンライン研修)』に参加いたしました。今回は福富 昌城先生（花園大学社会福祉学部）に『多問題事例の課題解決手法』を講義いただきましたが、少子高齢化、核家族化等を要因とした単身世帯、高齢者世帯による老々介護、８０５０問題、生活困窮（経済的困窮)、引きこもり等、近年は複合的、多重に課題を抱える利用者や家族支援が必要となるようなケースが多くなっています。ケアマネジャーとしてそのようなケースを支援するにあたり、情報収集、課題分析が重要であること。また、多職種連携の深化やインフォーマルサービス等の社会資源の活用等が有効となることを改めて認識する良い機会となりました

報告者　ケアスタジオ介護相談所　**島 崎　新 一**

令和４年度　主任ケアマネジャー医療・介護連携研修（主任介護支援専門員編）

令和４年８月より11月に渡り、医療介護連携研修に参加した。はじめに富山県の医療保険制度について、高齢化の進行と医療費の増大について説明を聞き、後期高齢者医療における財源の確保、少子高齢化社会がもたらす負担の在り方など、高齢者であっても収入に応じ相応の負担を行うことで持続可能な保険制度が必要ということや高齢者の保健事業と介護予防に一体的な実施を疾病予防・重症化予防を行うことに合わせ生活機能の改善を一体的に取り組む必要があることを学んだ。また、人口推移と将来推計より富山県は全国より速いペースで高齢化が進んでいる。要介護度別に見た介護が必要となった主要な原因が、重度化するにつれ認知症や脳血管障害の占める割合が高くなっている現状があった。そのような背景を知ったうえで、ケアマネジャーが必要な医療的な知識を知ることで、在宅で暮らす高齢者にいかに自立した本人の望む生活の場を提供できるのかを再確認する研修でもあった。在宅診療では、「病気の経験」を探る。感情・期待・解釈・影響を引き出すために、医師は医学的な視点から診察する。家族や知人の「症状」や「生活の変化」の経験から不安や心配などを共に探り、ご本人やご家族の不安を取り除き、負担を軽減し安心して過ごせる場を連携することで支えていくことができる。実務的な実践に必要な医療介護連携の方法や在宅医療と主治医の連携方法の実際、訪問看護や調剤薬局との連携等、お互いの仕事を知ることで、両者の強みを引き出し、つなぎ合わせるコーディネートの役割がケアマネジャーに期待されることだと思った。利用者の方やそれを取り巻く環境は、複雑になってきている。中でも経済的な格差や「８０５０問題」認知症の問題などケアマネジャーが情報をいかに集約し、次につなげていけるのか、今回の研修を通し勉強する機会を与えていただき感謝している。また、次に活かせるように頑張りたいと思った。

報告者　アモール居宅介護支援事業所　**石 橋 由利枝**

令和４年度　ケアマネジャー在宅医療研修　訪問リハビリテーション編」

訪問リハビリは、住環境・価値観・役割・家族関係等を把握しご本人様が望む生活を実現する為のご支援です。低下した機能をご本人様・ご家族様が折り合いあいをつけ人生に目標を持ち、前向きなライフステージに立つことができるのがリハビリと思います。始めは容易に達成できる課題を目標にプランを作成し目標を達成することで、次に達成できそうな課題を目標にしたプランを利用者さんと共に作成し目的を持ったリハビリを行うことで生活の質が上がり、スパイラルアップに繋がると思いました。

プラン作成は、いつも同じになりがちなことを反省しご利用者様の自立を促し自分らしくご自身の望む生活ができるようなプランの作成をしたいと思います。

報告者　城南もなみ居宅介護支援事業所　**酒 井　裕 子**

令和４年度　ケアマネジャー在宅医療研修（訪問看護編）について

訪問看護のサービス内容は利用者の状態や意向に応じて多様であり、利用者の目線に合わせて在宅生活に寄り添い、医療的視点から生活全体を把握し、柔軟に支援していることが理解できました。また、家族の状況や介護力も観察し、家族支援も大切にしていると感じました。私自身、在宅療養者を支援する際、特に困難と感じるのは病気の進行が見極め難いことであり、訪問看護を早期に導入し、日常的に心身の健康について相談できる相手がいることで安心して病状管理できると思われます。療養者が最期まで在宅生活を継続するためには、医療と介護との連携が不可欠です。ケアマネと訪問看護が中心となり、多職種が情報共有し、地域の協力も得ながら、本人や家族の思いに寄り添い、安心して在宅生活を過ごすことができる支援に繋げていきたいと感じました。

報告者　横田・西条・成美地域包括支援センター　**今 村　智 子**

協 会 員 募 集

介護支援専門員がスキルを高めるため等、研修を重ねるとともに相互の情報交換や交流を深めるため、一般社団法人富山県介護支援専門員協会として活動しています。調査・研究、会報の発行、ホームページの掲載等、会員の皆様にとって有用な情報をお伝えできるよう、理事会・各委員会で活動を進めております。

是非、多くの介護支援専門員の方々に当協会の会員になっていただきますようお願い申し上げます。また、入会と同時に日本介護支援専門員協会の入会もできます。

※富山県介護支援専門員協会の入会希望

正　会　員……会費 5,000円＋入会金 1,000円

賛 助 会 員……会費 5,000円１口とし、２口以上＋入会金 2,000円

※日本介護支援専門員協会と同時入会希望……12,000円

富山県介護支援専門員協会費に加え　【入会金（1,000円)+年会費 5,000円】

詳しくは、富山県介護支援専門員協会ホームページをご覧ください。

【問い合わせ・申し込み先】

〒930-0094　富山市安住町5番21号　富山県総合福祉会館内　一般社団法人富山県介護支援専門員協会事務局

TEL　076-432-6455　　FAX　076-432-6450　　http://www.toyama-cm.com/

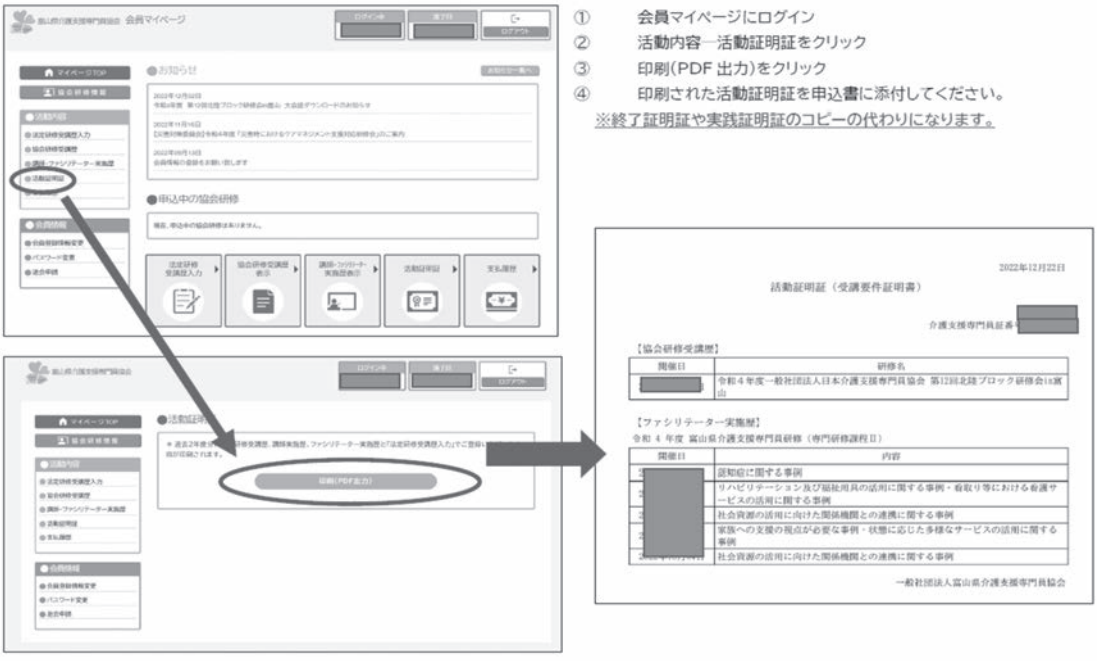
協会からのお知らせ

協会のホームページ上にマイページ登録をすることで、研修の申し込みや管理をスムーズに行う事ができます。ぜひご活用ください。

主任介護支援専門員の方は更新研修の際に必要な修了証明証や実践証明証の代わりになる「活動証明証」をダウンロードすることができます。

①会員マイページにログイン　　②活動内容→活動証明証をクリック

③印刷（ＰＤＦ出力）をクリック　　④印刷された活動証明証を申込書に添付してください。



令和５年度　北陸ブロック大会のお知らせ

令和４年度の「北陸ブロック大会」は富山県介護支援専門員協会が中心となりオンライン研修で無事開催する事ができました。次年度は、福井県介護支援専門員協会が中心となり企画・運営を行う予定となっております。内容が決まり次第、順次皆様へご案内させていただきますので、多くの皆様の大会へのご参加をお待ちしております。

編集後記

「コロナ」と共にオンラインによる研修が増え、オンライン研修への対応力が身についてきました。「コロナ」のような嫌な事の中にも、成長できる部分があります。とやまね通信で、研修参加者の記事を読ませていただくと、自分を成長させられる点をたくさん見つけておられて感動しました。次年度も協会HPのマイページを登録、活用して研修にどんどん参加していただけたら良いなと思います。